

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number: 08324153

(43)Date of publication of application: 10.12.1996

(51)Int.Cl.

B42D 1/02

B42C 11/00

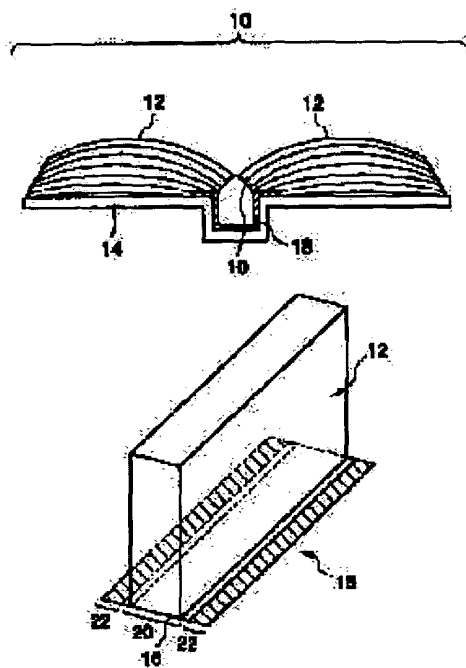
(21)Application number: 07135197

(71)Applicant: TOSHO PRINTING CO LTD

(22)Date of filing: 01.06.1995

(72)Inventor: IWASE MANABU

(54) BOOKBINDING STRUCTURE FOR BOOK TO BE SMOOTHLY OPENED



(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a bookbinding structure capable of easily opening a book having a text and a cover.

CONSTITUTION: A book 10 has a text 12 and a cover 14. A tape 18 is laminated along the back 16 of the text 12. The tape 18 has the width for surrounding the back 16. The tape 18 has a central bonding agent non-coating area 20 on one side surface and bonding agent coating areas 2 of both sides. The width of the area is wider than that of the text 12. The tape 18 is stuck to the front and rear of the text at a slight interval from the back 16. The cover 14 is coated with bonding agent 14 on the entire rear of the cover, and stuck to the text 12. A gap is formed between the back 16 of the text 12 and the tape 18. When the book 10 is opened, the back 16 is floated from the tape 18, and the right and left pages of the facing pages become flat.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-324153

(43)公開日 平成8年(1996)12月10日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 2 D 1/02			B 4 2 D 1/02	
B 4 2 C 11/00			B 4 2 C 11/00	

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-135197

(22)出願日 平成7年(1995)6月1日

(71)出願人 592139854

図書印刷株式会社

東京都港区三田五丁目12番1号

(72)発明者 岩瀬 学

東京都港区三田五丁目12番1号 図書印刷
株式会社内

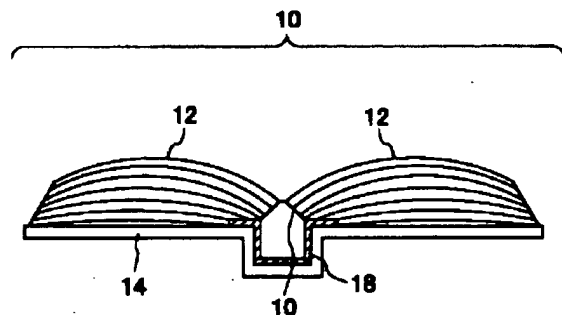
(74)代理人 弁理士 祐川 尉一 (外1名)

(54)【発明の名称】 開きをスムーズにした書籍の製本構造

(57)【要約】

【目的】 本文と表紙を有する書籍を開き易くした製本構造を提供すること。

【構成】 書籍10は本文12と表紙14を有してなる。本文12には背部分16に沿ってテープ18が貼着されている。テープ18は、背部分16を取り囲む幅を有する。テープ18は、一方の面において中央の接着剤非塗布領域20と両側の接着剤塗布領域22を有する。中央の接着剤非塗布領域20の幅は本文12の幅より広い。テープ18は、背部分16から僅かに間隔をおいて本文の表裏に接着される。表紙14はその裏面全面に接着剤14が塗布されて本文12と接着される。本文12の背部分16とテープ18との間に隙間が形成され、書籍10を開くと、背部分16がテープ18から浮き上がって、見開きの左右ページは平坦になる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本文と表紙を有してなる書籍において、前記本文の背部分に接着されずに該背部分を取り囲み且つ前記本文の表裏に跨がって接着されたテープを有し、前記本文が前記表紙の裏面に接着されていることを特徴とする、製本構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、開きをスムーズにした書籍の製本構造に関する。

【0002】

【従来の技術】一口に書籍といっても、表紙のくるみ方、綴じ方、丁合等の別によって、いろいろな分類方法がある。表紙のくるみ方から見ると「上製本」と「並製本」に大きく分けられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】また、上製本は、本文の背部分の接着方法に着目して、タイトバック方式とホローバック方式に分類される。

【0004】タイトバック方式とは、図5及び図6に示す如く、本文30の背部分32を布製の寒冷紗34及び背紙36で背固めし、その上に厚手の表紙38を接着して、表紙38で本文30をくるむ方式である。この方式によると、本文30の背部分32が表紙38に密着して固定されているため、表紙38の開閉による形の崩れは心配ないが、背部分32に柔軟性がなく、のど際まで開きにくいという欠点がある。

【0005】ホローバック方式とは、タイトバック方式と同様、図7に示す如く、本文40の背部分42を布製の寒冷紗及び背紙で背固めする方式であるが、本文40の背部分42と表紙44を接着させず、本文40の見返し部分と表紙44を接着させる方式である。従って、表紙44を開いたとき、本文40と表紙44の間に隙間46ができ、本文40の背部分42は表紙44に拘束されることがないため、タイトバック方式に比べて書籍が開きやすくなる。しかし、寒冷紗が本文40の背部分42に接着されるとともに、表紙44が本文40の背部分42の間際まで接着されているため、書籍が充分に開きやすいとはいえず、やはり、のど際まで開きにくいという欠点がある。

【0006】一方、綴じ方に着目すると、書籍は、「無線綴じ」、「平綴じ」、「アジロ綴じ」及び「中綴じ」に分類される。例えば、無線綴じとは、丁合された折丁の背部分をカッターで削った後、凹凸を付け、ホットメルトを背部分に塗り、表紙を接着する方式である。しかし、近年発行されている就職情報誌や年鑑等のように丁合が厚くなると、丁合の背部分がホットメルトに拘束されて、上記タイトバック方式の上製本のように書籍が開くにくくなるという欠点がある。

【0007】以上のように、従来の書籍は上製本及び並

製本とも、書籍を開く際、見開きの左右各ページの中央が盛り上がり、勝手にページが捲れたりして、のど際まで開きにくいという欠点がある。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、特殊構造のテープを利用することによって、書籍を開きやすくするための改良であって、積層状の本文と表紙を有してなる書籍において、前記本文の背部分に沿って該背部分を取り囲み且つ前記本文の表裏に跨がって接着されたテープを有し、前記本文を前記表紙の裏面に接着した製本構造により前記課題を解決するものである。

【0009】

【作用】本文の背部分はテープと非接着状態にあり、この部分に隙間が形成される。この隙間により、背部分に曲げに対する力が作用しないので、書籍を開く際の抵抗が小さく、見開きの左右ページは平坦に開かれる。

【0010】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。本発明の対象となる書籍10は、図1に示す如く、本文12と表紙14を有してなる。本文12とは、綴じ方を問わず、丁合（折丁を複数綴じたもの）されたものを意味する。以下、上製本を例にして、本発明の実施例を説明する。

【0011】図2に示されるように、本文12には背部分16に沿ってテープ18が貼着される。テープ18は、背部分16を取り囲む幅を有する。テープ18は、一方の面において、中央の接着剤非塗布領域20と、両側の接着剤塗布領域22からなる。テープ18は、背部分16から僅かに間隔をおいて本文の表裏に跨がって接着される。中央の接着剤非塗布領域20の幅は、本文12の幅と同じでもよいが、本文12がテープ18及び表紙14に拘束されないようにして書籍10を開きやすくするために、本文12の幅より広くする方が好ましい。

【0012】テープ18は、図3に示されるようにして本文12に貼着される。本文12は、クロス巻機24で送られるテープ18と同期搬送される。ローラR1～R5に押圧されて順次移送される間に、テープ18は本文12の表裏に跨がって貼着される。貼着完了後、テープ18は所定の長さに切断される。

【0013】テープ18が貼着された本文12は、次いで、表紙14に接着される。図4に示されるように、表紙14はその裏面全面に接着剤14が塗布され、くるみ機26に送られる。

【0014】製本された書籍10は、図1のように、本文12の背部分16とテープ18との間に隙間が形成される。この書籍10を開くと、背部分16が抵抗なくテープ18から浮き上がり、書籍を開く際の抵抗が小さくなるため、見開きの左右ページは平坦になる。

【0015】なお、以上の実施例はタイトバック方式の上製本を例にして説明したが、無線綴じ方式やアジロ綴

3

じ方式の並製本においても本発明を適用することができる。

【0016】

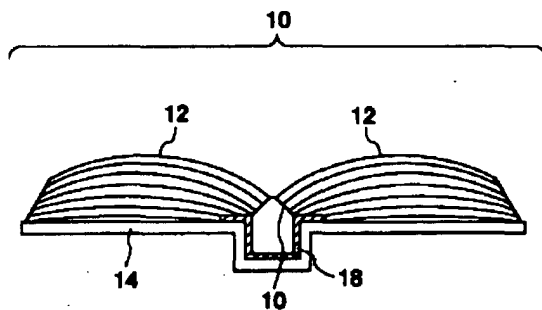
【発明の効果】本発明は、特殊構造のテープを利用することにより、書籍を開きやすくすることができる。また、見開きの左右ページの中央が盛り上がりたり、ページが勝手に捲れたりすることがなく、書籍の内容を読みやすい。特に、紙自体が厚い書籍や、各ページを合紙製本した書籍の場合に、本発明は好適である。すなわち、一枚一枚の紙が表紙に接着されていないので、のどに折り目さえあれば書籍を略々平坦に開くことができる。

【図面の簡単な説明】

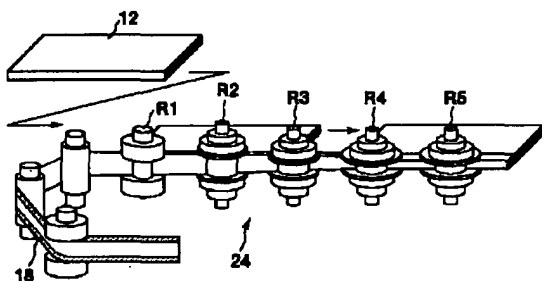
【図1】 本発明による製本構造を示す正面図。

【図2】 本発明の製本構造に使用するテープの斜視図。

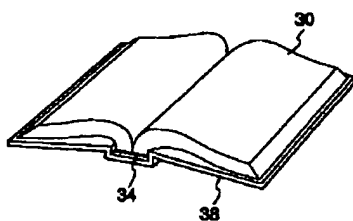
【図1】



【図3】



【図6】



4

図。

【図3】 本文にテープを貼着する工程を示す斜視図。

【図4】 テープが貼着された本文に表紙を接着する工程を示す斜視図。

【図5】 従来の書籍における本文の背部分を示す斜視図。

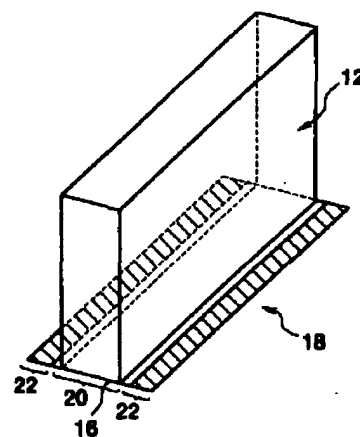
【図6】 タイトバック方式の上製本の斜視図。

【図7】 ホローバック方式の上製本の斜視図。

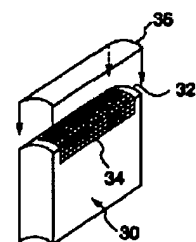
【符号の説明】

- | | |
|----|-----|
| 10 | 書籍 |
| 12 | 本文 |
| 14 | 表紙 |
| 16 | 背部分 |
| 18 | テープ |

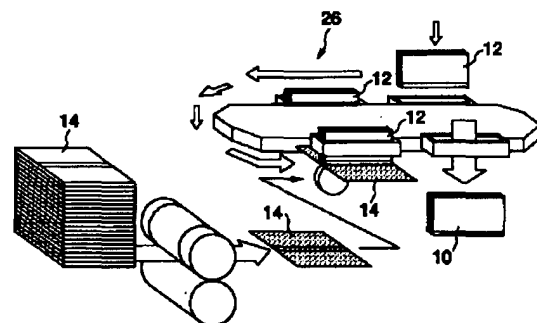
【図2】



【図5】



【図4】



(4)

特開平8-324153

【図7】

